

WEEFINE

WF Solar Flare 13000PRO

30605

Fisheye

目次

<はじめに>

- 安全にお使いいただくために 3
- 仕様 4
- 各部名称 5

<使用方法>

- YS ベースの取付 6
- バッテリー装填手順 6
- 充電方法 7
- 光ファイバーケーブル 8
- 操作方法 9
- 高温時保護モード 10
- セーフティモード 10

<メンテナンス>

- O リングの確認 11
- 浸水テスト 11
- 使用後のメンテナンス 12
- もしも浸水した場合 12
- オーバーホール 12
- バッテリーについて 12

*取扱説明書について

- 本書の内容は、予告なく変更することがあります。
- 本書の内容について、誤記、記載漏れ、印刷ミス、不明な点などがありましたら、弊社もしくはお近くの販売店までご連絡をお願いいたします。
- 本書の一部もしくは全部は、いかなる方法でも、無断で複写・複製することはできません（個人利用を除く）。

安全にお使いいただくために

- この説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
- 誤った使い方をされますと、故障や水没の原因となり、修理不能になる場合があります。
- ご使用の際にはこの説明書に従い必ず点検、テストを行ってください。
- 分解、改造、修理に伴う事故などに関し、当社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関する補償はいたしかねます。

安全上の注意

ここに表示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- 危険** 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。
- 警告** 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- 注意** 取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

危険

- バッテリー接点部同士を、金属板や針金などで接続しないでください。感電や発火の原因になります。
- 本製品を改造・分解しないでください。発熱や発火の原因になります。
- ナイトダイビングや洞窟など暗い水中でのご使用時には、必ず予備のライトをお持ちください。バッテリー切れなど、万一何らかのトラブルが起きた際、パニックにつながる原因になります。

警告

- 本製品を乳児、幼児、小さなお子様など、本製品の取り扱い注意事項を理解できない人の手の届く場所に保管しないでください。
- ライト本体にバッテリーを入れたまま保管しないでください。ガスや液の発生によって、人体に影響を及ぼす危険があります。
- 本製品をご自分の目や他の人の目に向けて照射しないでください。失明や視力障害など重大な障害を引き起こすおそれがあります。
- 本製品の発光部を床やテーブルに伏せた状態で点灯させないでください。また、燃えやすいものの近くで点灯させないでください。火災の原因となるおそれがあります。
- 必ず専用のバッテリーとチャージャーをご使用ください。他の製品を使用すると本製品を破損させたり、ガスが発生して危険な状態になる場合があります。
- 濡れた手でバッテリーやチャージャーを触ると感電する危険性があります。バッテリーは十分に乾いた手で取り扱ってください。

⚠ 注意

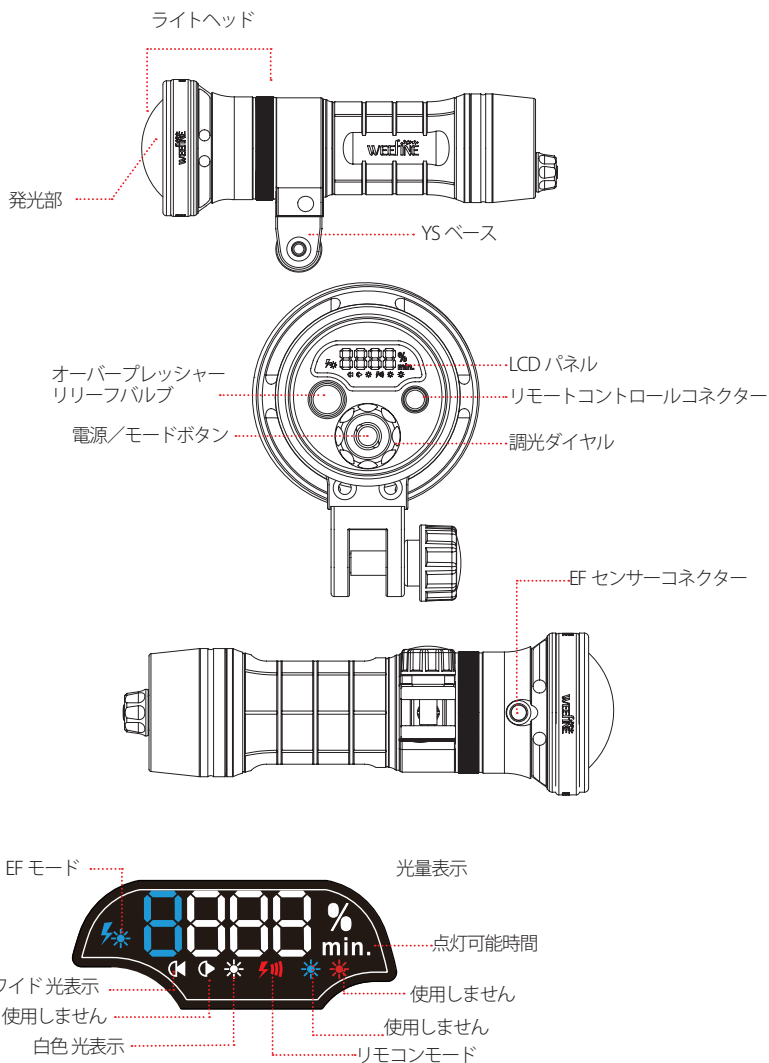
- 本製品は 100 mの水深まで耐えられるように設計されています。それ以上深い場所で使用したり、それより浅い深度においても衝撃や圧迫を加えると破損したり、浸水するおそれがあります。
- 浸水や故障などの事故を防ぐためにこの説明書をよくお読みになり、ご使用前後に必ず点検とメンテナンスを実施してください。
- 気温が異常に高くなる、あるいは低くなる場所、極端に大きな温度変化がある場所などに本製品を置いたり、保管したりしないでください。部品が劣化し、破損したり防水機能を損なうおそれがあります。
- 砂や塵、ほこりなどが多い場所でライト本体を開閉すると、防水部分に異物が付着し、防水性能が損なわれることがあります。
- 飛行機で移動する場合は、本体のOリングを外しておくことをおすすめします。気圧の影響で取り外しができなくなったり、またその状態で無理に取り外そうとすることで製品を破損するおそれがあります。
- 本製品から異音や異臭がする場合や煙が出る場合は、バッテリーを取り外し、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、浸水が発生した場合、速やかに電源を切り、バッテリーを取り外してください。濡れているバッテリーに直接触れると感電の危険性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。
- アルコールやベンジン、シンナーなどの有機系溶剤は、変形などの原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 万一、浸水が発生した場合、すぐに使用を中止してください。また、浸水している場合、本製品内部の圧力が高くなっていることがあります。ライト本体を開ける際、水が噴き出したり、ライト本体が跳ねることがありますので、十分ご注意ください。

仕様

製品名	WF Smart Focus 13000PRO
最大光量	13000 ルーメン
水中照射角	150 度
色温度	5600K
演色性	Ra90
最大光量時連続点灯時間	60 分 +10 分 (セーフティモード)
最大光量時瞬間光照射回数	約 15000 回 *
陸上点灯可否	不可
充電時間	4 時間
付属バッテリー容量	6800mAh
本体材質	耐腐食アルミ合金、アクリル樹脂
耐圧水深	100m
サイズ	φ 75 x L225mm
陸上重量	1060g
水中重量	520g
付属品	Li-ion バッテリー WBL-81D、SF01 チャージャー、ドームレンズカバー、YS ベース、ダイレクトベース、ヘッドラバーバンド (パープル/レッド)、スペア Oリングセット、Oリングリムーバー、Oリンググリス、六角レンチ、キャリングバッグ、光ファイバーケーブル用 Oリング

* 照射回数は通常点灯の状態の光量や待機時間によって異なります

各部名称



⚠ 注意

リアルタイムで表示される点灯残時間は、残電量と光量により自動算出される理論値です。この数値は、バッテリーのコンディションや周囲の水溫などの使用環境により、実際の点灯可能時間とは誤差が生じる場合があります。

■ 使用方法

■ YS ベースの取付

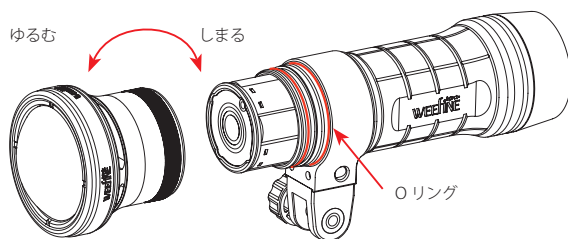
※出荷時は取り付けられた状態です

1. YS ベースの凸とアダプターホルダーの凹を合わせます。
2. 付属の固定ネジをマイナスドライバーにて締め込み、固定します。

NOTE 同様にして付属のボールアダプターを六角レンチで取り付けることもできます。

■ バッテリー装填手順

1. ボディをしっかりと持ち、ライトヘッドを下図の方向に回して取り外します。
2. バッテリーを取り出し、前後に貼ってある絶縁シールを剥がします。(初回のみ)
3. 充電されたバッテリーをボディへ装填します。バッテリーはどちらの向きで装填しても点灯します。
3. ボディをしっかりと持ち、ライトヘッドを下図の方向に回し取り付けます。

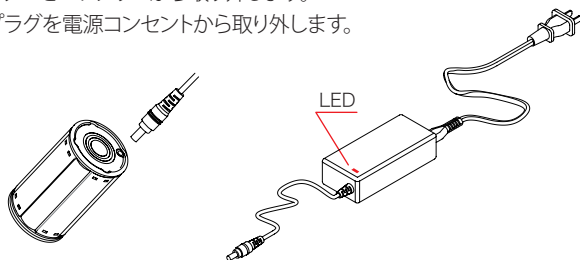


- ⚠ 警告**
- 感電や破損のおそれがありますので、濡れた手や濡れた環境では絶対に作業しないでください。
 - ライトヘッドを取り付ける前には、必ず Oリングや Oリング溝、Oリング接触面にゴミや砂などが付着していないことを確認し、Oリングのグリスアップを実施してください。
 - バッテリーを取り出す際は、落下にご注意ください。バッテリーの破損だけでなく、ケガなどにつながるおそれがあります。

- ⚠ 警告**
- 本製品には不用意な電源 ON を防止するためのロック機構がありません。運搬中に誤点灯することがないように、持ち運びの際は本体よりバッテリーを取り外してください。

■ 充電方法

1. バッテリーをライトから取り外します。
2. チャージャーの AC プラグを電源コンセントに差し込みます。チャージャーの LED が緑色に点灯することを確認してください。
3. チャージャーのコネクターをバッテリーに差し込むと充電が開始されます。チャージャーの LED 点灯が赤色に切り替わったことを確認してください。
4. 充電が完了すると、チャージャーの LED 点灯が緑色に切り替わります。(充電時間は最大 4 時間)
5. チャージャーのコネクターをバッテリーから取り外します。
6. チャージャーの AC プラグを電源コンセントから取り外します。



NOTE バッテリーが満充電の場合、チャージャーに接続しても LED 点灯は緑色のままです。

- ⚠ 危険**
 - バッテリーやチャージャーが熱を持つことがありますので、絶対に紙や絨毯など燃えやすい物の上で充電しないでください。
 - ケーブルを束ねた状態で充電すると発熱で火災の原因になるおそれがありますので絶対におやめください。
- ⚠ 警告**
 - 感電や破損のおそれがありますので、濡れた手や濡れた環境では絶対に作業しないでください。
 - 水没した、あるいは水没しているおそれのあるバッテリーを絶対に充電しないでください。
- ⚠ 注意**
 - チャージャーはマルチボルト (100 ~ 240V) 対応ですが、自家発電のリゾートやクルーズ船などは電圧が非常に不安定なため、異常な高電圧によりチャージャーを破損させてしまうおそれがあります。国外での使用は安全回路内蔵の変圧器を併用されることをおすすめします。
 - 30℃以上の高温になる所や直射日光の当たる所に放置しないでください。
 - 充電中、振動や衝撃、落下などで充電コネクターからプラグがはずれたりしないよう安定した場所で充電してください。また、充電中にプラグが外れてしまった場合、バッテリーが熱を持った状態で再充電せず、常温に戻るのを待って再度充電してください。温度センサーが働いて、フル充電できないことがあります。

■ 光ファイバーケーブル

ケーブルの接続

本製品を EF モード、またはリモートコントロールモードで使用する場合、各コネクタに光ファイバーケーブルを接続します。コネクタの形式は SEA&SEA タイプです。

⚠ 警告 コネクタに挿入しにくい場合は、先端の O リングに適量のグリスを塗布してください。

推奨ケーブル

接続用の光ファイバーケーブルは、以下をご用意ください。

『FIX マルチコアオプティカルケーブル S/L』

『NA ユニバーサルオプティカルファイバー /L』

『OM SYSTEM 水中光ファイバーケーブル PTCB-E02』

『SEA&SEA 光ファイバーケーブル II S/2、M/2、L/2 コネクタ』

■ 操作方法



点灯と消灯

- 電源 OFF の状態で電源 / モードボタンを約 1 秒間長押しすると、LCD パネルが全点灯し、その後通常点灯します。
- 電源 / モードボタンを約 2 秒間長押しすると消灯します。
調光ダイヤルを時計回り / 反時計回りに回すと、0 ~ 100% まで 12 ステップ [0 ⇄ 3 ⇄ 10 ⇄ 20 ⇄ 30 ⇄ 40 ⇄ 50 ⇄ 60 ⇄ 70 ⇄ 80 ⇄ 90 ⇄ 100%] で光量が増加 / 減少します。

EFモード

静止画撮影で、カメラのストロボ光と連動し瞬間光を発光するモードです。通常点灯状態をフォーカスライトとし、ハウジングのシャッターを切ると通常点灯から瞬間光に切り替わり発光します。



通常光量を 10%、
瞬間光を 9 レベルに設定

EFモードの設定

- 1.本機の「EFセンサーコネクター」とハウジングの「外部ストロボコネクター」を光ケーブルで接続します。
- 2.通常点灯の状態では光量を設定します。（フォーカスライトの設定となります。光量0%でフォーカスライトは点灯しません）
- 3.電源 / モードボタンを1.5秒程度押しすと、EFモードに切り替わります。再度、電源 / モードボタンを約1.5秒押しすと、通常点灯状態にもどります。

光量調節(EFモード)

調光ダイヤルを時計回り / 反時計回りに回すと、0~9レベルまで10ステップで光量が増加 / 減少します。

ストロボ光自動消灯モードとしての利用

瞬間光のレベルを「0」にし、カメラのフラッシュ発光を感知すると通常光が消灯し、瞬間光は発光せず、1秒後に再点灯します。露出ムラや色かぶりがしないフォーカスライトとして使用できます。

NOTE**EFモード照射**

- EFモードは、光ファイバーで接続されたカメラの内蔵フラッシュ光やLED光に連動し、9～0の設定値の瞬間光を照射します。（光量0%=ストロボ光自動消灯モード）
- 使用するカメラは、強制発光モードのように必ず内蔵フラッシュが発光する設定にしてください。
- EFモードは連写撮影にも対応しています。ただし連写速度はカメラの内蔵フラッシュの発光間隔に依存します。
- EFモードの瞬間光は、カメラ側の制御による自動適正露出には対応していません。
- 適正露出で撮影するためには、照射光量、ISO感度、絞り値、シャッタースピードを組み合わせ調整してください。
- 水中でスムーズに撮影できるよう、あらかじめテスト撮影などで設定を確認しておくことをおすすめします。

SOS モード／点滅シグナルモード

点灯と消灯

- 電源 OFF の状態で、電源 / モードボタンを約 3 秒間以上長押しすると SOS 発光を開始します。
[3 回の短い点滅]⇒[3 回の長い点滅]⇒[3 回の短い点滅]⇒[消灯]を繰り返します。
- SOS 発光中に電源 / モードボタンを押すと点滅シグナルモードに切り替わります。
- もう一度電源 / モードボタンを押すと SOS モードに戻ります。
- いずれのモードでも、電源 / モードボタンを約 2 秒間長押しすると消灯します。

■ 高温時保護モード

使用中にライト本体が 50° C 以上になると、自動的に保護モードへ移行し、光量を 20% まで落とします。温度が 45° C 未満まで下がると復帰します。

■ セーフティモード

バッテリー残量が残りわずかになると、光量を 10% まで落とし、約 10 分後自動的に電源が OFF になります。

■ メンテナンス

■ Oリングのメンテナンス

ライトは専用のOリングによって防水機能を維持しています。本体とライトヘッドとの間の2本のOリングは、ユーザーによるメンテナンスが必要です。長期間ご使用にならない場合は、Oリングに付属のシリコングリスを薄く塗って保管してください。また、Oリングは1年ごとの交換をおすすめします。

⚠ 注意

- Oリングを外す際は、絶対に金属製の鋭利なもの(はさみやナイフ)を使わず、付属の「Oリングリムーバー」をご使用ください。
- Oリングの摩擦や劣化を防ぐため、Oリングの表面に付属のOリンググリスを薄く塗布(グリスアップ)します。その際、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、Oリンググリスが多すぎると、かえってゴミやホコリが付きやすくなりますのでご注意ください。
- Oリング面に小さな傷やひび割れなどがある場合は、絶対に使用せず、すぐにスペアのOリングに交換してください。
- Oリング溝、Oリング接触面にも、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、傷やひびなどがなくもしっかり確認してください。
- Oリング溝にOリングを装着する際、Oリングがねじれたり、はみだしたりしないようにご注意ください。
- OリングやOリング溝のチェック、グリスアップなどは、ボディの開閉ごとに実施してください。

■ 浸水テスト

本製品の使用前に、浸水テストの実施をおすすめします。水を張った洗い桶や洗面器などに、本製品を水平を保ったまま浸してください。3秒で一度、30秒で一度、3分間で一度、水から取り出して本体ケースを開け、内部に浸水がないことを確認してください。

■ 使用後のメンテナンス

1. 使用後は、ライト本体をおよそ10～20分程度、真水に浸けておいてください。また真水の中で、電源/調光ボタン、光量調節ボタンを数回押して、ボタンの周囲についた塩分を洗い流してください。
2. 真水から上げたら、弱い流水で洗ってください。強い水流を一定方向から当てると浸水の原因となりますので、絶対におやめください。
3. 水洗い後は、乾いた柔らかい布などで水気をよく拭き取ってください。直射日光による乾燥、ドライヤーやストーブによる乾燥は、故障や変形、破損の原因となりますので絶対におやめください。
4. ご使用後は、Oリングにシリコングリスを薄く塗ってから保管してください。Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。
5. 長時間ご使用にならない場合は、高温多湿、直射日光、極端に気温が下がる場所を避けて保管してください。
6. アルコールやシンナー、ベンジンなどの有機系溶剤や中性洗剤は、変形や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

▲ 注意

海水で使用後、そのまま放置すると細かいすき間などに塩分が残り、乾燥するとその塩分が結晶となり水に溶けなくなってしまいます。結晶化した塩分は時にOリングを押し上げ、浸水の原因となりますので、必ず真水に浸けて塩分を洗い流してください。

■ もしも浸水した場合

本製品は、万一、本体内部に浸水してもダメージが最小限で抑えられる構造になっていますが、浸水を確認した場合や浸水が疑われる場合は、速やかに本製品の使用を中止し、弊社カスタマーサービス (Tel.03-5988-0191) までご連絡ください。

■ オーバーホール

本製品の使用回数に関わらず、1年から2年に一度の定期的なオーバーホールをおすすめします。製品内部にユーザー自身では交換できない防水パーツを使用しています。これらを定期的に変換・メンテナンスすることで浸水事故を防止し、製品寿命を延ばすことになります。一定期間が経過した製品は、ぜひ弊社カスタマーサービスまでオーバーホールをご依頼ください。

■ バッテリーについて

長期間使用しない場合は、バッテリーの容量を70%にして保管すると最適です。バッテリーの劣化を防ぐには、6か月に一度は充放電をおこなってください。